

5 児童・生徒及び短期大学生の人生観に関する意識調査

瀬戸内短期大学 ○門 田 美千代（2回生）
高岡中学校 渡 辺 雅 代（16回生）

I 緒 言

近年物質文明の高度成長によって社会の著しい変動に伴い、生活環境並びに精神衛生の面にも甚大な影響を与えつつある。現在、児童・生徒のなかには三無症、無気力・無責任・無関心なものと登校拒否、校内暴力、いじめ等の極端な現象に見られるごとく、多くの児童・生徒・学生にとっても不安や混乱、動揺等の思潮が窺われる。ここに児童・生徒・学生の中には、健康や、生命についての価値観さえ見失い、中には自殺するものさえある。一方、我が国には、宗教的背景が少なく生と死に関する教育も著しく立ち遅れている。そこで現在の児童・生徒・学生についての人生に対する見方を知りたく、「生と死について」の意識調査を行なった。

II 調査目的と調査方法

調査目的：① 小学生～大学生までのAllport の人生観分類

② 現在の短大生の人生観を調査すること。

調査対象：K 県のT 中学校 1 年生 94 名、2 年生 104 名、3 年生 113 名、S 小学 5 年生 84 名、6 年生 87 名、及び S 短期大学生 293 名

調査時期：1992 年 2 月

調査方法：① 中学生及び小学生は Allport の人生観の調査（表 1）

② 大学生は Allport の人生観の調査と同時に（表 2）のアンケート調査をおこなった。

III 結果と考察

1. Allport の人生観

① 小学生の Allport の単純集計

② 中学生の Allport の単純集計

③ 大学生は Allport の単純集計と 14 項目アンケートの単純集計

表1 Allport の人生観分類に対するアンケート結果(1)

(小学生・男女別) (上段：人数、下段：%)

Allport の 分 類 項 目	男 子	女 子	合 計
(1) 金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮しをする。	18 19.8	28 35.0	46 26.9
(2) その日その日を呑気にクヨクヨしないで暮す。	21 23.1	15 18.8	36 21.1
(3) よくないことを押し退けてどこまでも清く暮す。	10 11.0	6 7.5	16 9.4
(4) 一身のことを考えずに社会のために捧げて暮す。	5 5.5	1 1.3	6 3.5
(5) 一生懸命働いて金持ちになる。	31 34.1	26 32.5	57 33.3
(6) まじめに勉強して名声をあげる。	5 5.5	4 5.0	9 5.3
(7) 無 回 答	1 1.1	0 0	1 0.6
合 計	91 100	80 100	171 100

表2 人生観の3分類別の集計(小学生男女別)

(上段：人数、下段：%)

人 生 観	男 子	女 子	合 計
現 実 主 義 的	39 42.9	43 53.8	82 48.0
理 想 主 義 的	15 16.5	7 8.8	22 12.9
立 身 出 世 主 義 的	36 39.6	30 37.5	66 38.6
無 回 答	1 1.1	0 0	1 0.6
合 計	91 100	80 100	171 100

表3 中学生を対象としたAllport の人生観分類に対するアンケート結果

(上段：人数、下段：%)

分類 項目	1 年			2 計			3 年			学 年 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
(1)	21 39.6	23 56.1	44 46.8	19 35.2	23 46.0	42 40.4	22 40.7	22 37.3	44 38.9	62 38.5	68 45.3	130 41.8
(2)	15 28.3	11 26.8	26 27.7	12 22.2	13 26.0	25 24.0	15 27.8	19 32.2	34 30.1	42 26.1	43 28.7	85 27.3
(3)	3 5.7	3 7.3	6 6.4	4 7.4	5 10.0	9 8.7	2 3.7	5 8.5	7 6.2	9 5.6	13 8.7	22 7.1
(4)	2 3.8	0 0	2 2.1	0 0	0 0	0 0	2 3.7	1 1.7	3 2.7	4 2.5	1 0.7	5 1.6
(5)	10 18.9	1 2.4	11 11.7	14 25.9	7 14.0	21 20.2	8 14.8	6 10.2	14 12.4	32 19.9	14 9.3	46 14.8
(6)	1 1.9	2 4.9	3 3.2	1 1.9	0 0	1 1.0	1 1.9	2 3.4	3 2.7	3 1.9	4 2.7	7 2.3
無回答	1 1.9	1 2.4	2 2.1	4 7.4	2 4.0	6 5.8	4 7.4	4 6.8	8 7.1	9 5.6	7 4.7	16 5.1
合 計	53 100	41 100	94 100	54 100	50 100	104 100	54 100	59 100	113 100	161 100	150 100	311 100

表4 中学生を対象とした人生観の3分類の集計

(上段：人数、下段：%)

人生観	1 年			2 年			3 年			学 年 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
現 実 主 義	36 67.9	34 82.9	70 74.5	31 57.4	36 72.0	67 64.4	37 68.5	41 69.5	78 69.0	104 64.6	111 74.0	215 69.1
理 想 主 義	5 9.4	3 7.3	8 8.5	4 7.4	5 10.0	9 8.7	4 7.4	6 10.2	10 8.8	13 8.1	14 9.3	27 8.7
立身出世主義	11 20.8	3 7.3	14 14.9	15 27.8	7 14.0	22 21.2	9 16.7	8 13.6	17 15.0	35 21.7	18 12.0	53 17.0
無 回 答	1 1.9	1 2.4	2 2.1	4 7.4	2 4.0	6 5.8	4 7.4	4 6.8	8 7.1	9 5.6	7 4.7	16 5.1
合 計	53 100	41 100	94 100	54 100	50 100	104 100	54 100	59 100	113 100	161 100	150 100	311 100

表5 Allport の人生観分類によるアンケートの単純集計結果

(調査総数 = 293 人)

質 問 項 目	人 数	%
(1) 金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮らしをする	142	48.5
(2) その日その日を呑気にクヨクヨしないで暮らす	109	37.2
(3) 良くないことを押し退けてどこまでも清く暮らす	8	2.7
(4) 一身のことを考えずに社会のために捧げて暮らす	10	3.4
(5) 一生懸命働いて金持ちになる	16	5.5
(6) 真面目に勉強して名声をあげる	3	1.0
(7) 無 回 答	5	1.7

表6 Allport の人生観に対する質問結果 (調査総数 = 293)

項 目		人 数	%	合計 %
現実主義	趣味 (1) 金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮らしをする。	142	48.5	現実主義 85.7
	殺那 (2) その日その日を呑気にクヨクヨしないで暮らす。	109	37.2	
理想主義	理想 (3) 良くないことを押し退けてどこまでも清く暮らす。	8	2.7	理想主義 6.1
	奉仕 (4) 一身のことを考えずに社会のために捧げて暮らす。	10	3.4	
名利主義	実利 (5) 一生懸命働いて金持ちになる。	16	5.5	名利主義 6.5
	名声 (6) 真面目に勉強して名声をあげる。	3	1.0	

小学生では48%であった現実主義が中学生では70%近くに達し、さらに女子大生になると80%以上の学生が趣味的に呑気に暮らすという現実主義人生観である。次いで理想主義と立身出世主義が相等しく約7%に過ぎなかった。若い女子大生にとって理想主義の6%は少なすぎる数字と考えられる。

表7 14項目アンケートの単純集計結果(調査総数=293人、上段:人数、下段:%)

質 問 事 項	回 答 肢				
	は い	いいえ	わからない		
(1) 自分の死について考えたことがありますか	223 (76.1)	48 (16.4)	22 (7.5)		
(2) 死後にも精神(たましい)が残ると思いますか	183 (62.5)	31 (10.6)	79 (27.0)		
(3) 死について不安や恐れを感じますか	159 (54.3)	65 (22.2)	69 (23.5)		
(5) 安楽死について賛成ですか	206 (70.3)	10 (3.4)	77 (26.3)		
(6) 尊厳死について賛成ですか	159 (54.3)	26 (8.9)	108 (36.9)		
(7) 信仰を持っていますか	42 (14.3)	251 (85.7)	0 (0.0)		
(8) 脳死を人の死と認めますか	87 (29.7)	69 (23.5)	137 (46.8)		
(9) 癌告知について賛成ですか	191 (65.2)	14 (4.8)	88 (30.0)		
(10) 臓器移植は賛成ですか	237 (80.9)	11 (3.8)	45 (15.4)		
(11) 望まないときに妊娠したら出産しますか	83 (28.3)	41 (14.0)	169 (57.7)		
(12) ホスピス活動やターミナルケアに参加したいですか	105 (35.8)	18 (6.1)	170 (58.0)		
(13) あなたにとって宗教は必要ですか	35 (11.9)	144 (49.1)	114 (38.9)		
(4) 死ぬとき誰に付き添ってほしいですか	愛 人	家 族	友 人	多くの人	一 人
	70 (23.9)	194 (66.2)	4 (1.4)	5 (1.7)	20 (6.8)
(14) 病院で死にたいですか、自宅で死にたいですか	病 院		自 宅		そ の 他
	25 (8.5)		249 (85.0)		19 (6.5)

表2の14項目に関する単純集計の結果から女子大生の生と死についての考え方の特徴は以下のようなものであった。

質問項目(1)の「自分の死について考えたことがありますか」の質問では、76.1%とかなり多くの学生が「はい」と回答しており、現代っ子の短大生においても、自分の「死」についてはそれなりに考えていることがわかった。

質問項目(2)の「死後にも精神(たましい)がのこると思いますか」の質問では、62.5%と半分以上の多くの学生が「はい」と回答しており、死後の魂の存在を信じていた。これは死後の世界また心霊現象などを取り扱ったマスコミや週刊誌の影響を受けているものと考えられ、若い女性特有のものと思わせるのではないだろうか。

質問項目(3)の「死について不安か恐れを感じますか」の質問には、54.3%もの学生が不安や恐れを感じており、死について考えたことや死後の世界があると答えておきながら、死について不安や恐れを感じていることは、そこに精神的な支えが無いからであろう。今回は、若い女子短大生に焦点を絞っての調査であるが、これを年代別に調査するとまた違った結果が出て来るものと思われる。

質問項目(4)の「死ぬ時に誰に付き添ってほしいですか」については、愛人23.9%、家族66.2%友人1.4%、多くの人1.7%、一人で6.8%であった。圧倒的に家族や愛する人と答えているものが多くやはり愛してくれる人、家族に見守られながら死にたいと願うのであろう。

質問項目(5)の「安楽死(苦しみに死ねること)について賛成ですか」の質問については、安楽死を希望する者が70.3%と高く、苦しみや痛みを伴う死の恐れ等はやはり避けたいのであろうと推察される。

質問項目(6)の「尊厳死(醜くならず死ねること)について賛成ですか」の質問については、尊厳死を希望する者は54.3%を占めた。醜い姿をさらけ出すこと等はやはり避けたい、美しいまま死にたいと希望するのが人の常であろうと推察される。「わからない」と答えた者が36.9%と多いのは、安楽死と尊厳死との区別が明確に把握できなかったのではないかと思われる。

質問項目(7)の「信仰を持っていますか」の質問について、はっきり信仰を持っていると回答した学生は、僅かに14.3%とかなり少ない。信仰を持っていないということが、死について不安や恐れを感じているのではないかと思われる。国外でみると、幼児期より宗教教育が行われている国もあり、はっきり自分の信仰を持っている若者もわが国より多いのではないかと推測される。

質問項目(8)の「脳死(頭脳が死んで生き返ることはない状態)を人の死と認めますか」については、自信を持って「はい」と言える学生が29.7%と少なく、わからないが46.8%あることから脳死については、まだ社会の中で熟成していないせいかな慎重な態度が窺える。

質問項目(9)の「癌告知について賛成ですか」の質問については、賛成の者が65.2%とほとんど

の者が癌告知に賛成であるが、癌告知を否定している者は4.8%と極めて少なかった。これは自分の疾病については正確に知ることを希望していることがわかる。

質問項目⑩の「臓器（内臓）移植は賛成ですか」の質問については、賛成が80.9%を占め、大半の者が肯定的な意見である。

質問項目⑪の「将来望まないとき、妊娠したら出産しますか」の質問については、「出産する」とはっきり言える学生が28.3%と少ないのは現代的な気質かと思われる、しかし積極的に「出産しない」と答えている者が14.0%と少なく、57.7%の者は判らないとしているので、この考えも「生命の誕生」「性教育」などを学習することにより変化するのではないかと推察される。

質問項目⑫の「ホスピス活動、ターミナル・ケアに参加したいですか」については、積極的に参加したい者が35.8%で大半の者が「わからない」と答えている。これは諸外国に比べて日本はホスピス活動が遅れているせいもあると思われる。したがって日本では、まだホスピス活動、ターミナル・ケアそのものの働きの内容が十分に理解されていないものと推定される。

質問項目⑬の「あなたにとって宗教は必要ですか」の質問については、「はい」と答えたものは11.9%で、質問項目(7)の信仰を持っている者の比率に近い値であった。一方、「いいえ」と約半数の学生が答えているのが特徴的であった。この質問項目と(1)(2)(3)(7)の質問を総合すると現代の若者の不安定な精神構造の一端を窺うことができる。即ち、「死」についての不安は、76.1%と大半の者が持っている。今までならば信仰や宗教がその不安を取り除く役割を果たしていたが現代の若者の大部分（約90%の者）はその宗教を受け入れない。そのため、心の安らぎを与えてくれるものを否定したまま、不安だけを抱いている不安定な精神状態が窺える。

質問項目⑭の「病院で死にたいですか、自宅で死にたいですか」の質問については、「自宅」と答えた学生が85%と圧倒的に多い。質問項目(4)で死ぬ時に誰に付き添ってほしいですかの質問に対して、家族や愛する人と答えたものが多く、大部分の者は家族に見守られながら自宅で死にたいと思っている。このことは、宗教に馴染んでいない若者達は、家族の中に心の安らぎを求めていることが明らかである。

2. アンケート質問項目と各質問項目とのクロス集計

アンケート質問項目(1)の「自分の死について考えたことがありますか」の質問に対して、質問項目(3)の死について不安か恐れを感じると答えた者が、自分の死について考えたことがある人が81.65%と多かった。

質問項目(2)の「死後にも精神(魂)があると思いますか」の質問に対して、質問項目(3)について不安か恐れを感じてないと答えた人が、死後にも精神(たましい)が有ると答えた人が多く(72.13%)、(P = 0.039)の相関がみられた。死の不安に対してわからないと答えた人では、死後の魂を信じている人は少なく(55.1%)、質問項目(4)の「死ぬ時に誰に付き添ってほしいですか」

表 8 質問項目(3)と(1)および(2)とのクロス集計結果

(集計総数 = 288 人、上段：人数、下段：%)

質問項目(3) (死に不安)	質問項目(1)(死を考える)			計	質問項目(2)(死後の魂)			計
	は い	いいえ	わからない		は い	いいえ	わからない	
は い	129 (81.7)	20 (12.7)	9 (5.7)	158 (100)	100 (63.3)	19 (12.0)	39 (24.7)	158 (100)
い い え	48 (78.7)	11 (18.0)	2 (3.3)	61 (100)	44 (72.1)	7 (11.5)	10 (16.4)	61 (100)
わからない	44 (63.8)	16 (23.2)	9 (13.0)	69 (100)	38 (50.1)	4 (5.8)	27 (39.1)	69 (100)
計	221 (76.7)	47 (16.3)	20 (6.9)	288 (100)	182 (63.2)	30 (10.4)	76 (26.4)	288 (100)
検定統計量	$\chi^2 = 10.672$ $P = 0.031$			$\chi^2 = 10.092$ $P = 0.039$				

の答えで「愛人」と答えた人は、死後の魂を信じている割合が多い(74.29%)が、「友人」と答えた人では、全てが死後にも精神(たましい)が残ると信じている。(100%)($P = 0.013$)。

質問項目(9)の「癌告知について賛成ですか」の質問に癌告知に反対と答えた人では死後の魂を信じている人が少ない(46.15%)($P = 0.004$)。

質問項目(4)の「病院で死にたいですか、自宅で死にたいですか」の質問に対して、「病院がいい」と答えた人では56.2%の人が、また、自宅で死にたいと答えた人は62.6%、病院・自宅以外と答えた人は78.95%で、死後の魂を信じている人が最も多かった。このことは、死後の魂を信じている人は、死に場所は何処でもいいので殊更固守しないのではないかと思われる。

質問項目(3)の「死について不安か恐れを感じますか」について質問項目(6)の尊厳死に反対と答えた人が死に不安を感じている人が少ない(38.46%)。質問項目(8)の脳死を認めると答えた人が死に不安を感じている人が少なく(49.63%)、脳死を認めないと答えた人が死に不安を感じている人が多い(58.82%)。

質問項目(10)の「臓器(内臓)移植は賛成ですか」の質問に対して、臓器移植に賛成の人が死に不安を感じている人の割合が高い(87.34%)。またホスピス活動に参加すると答えた人が臓器移植に賛成の人が多く(92.2%)、逆にホスピス活動に参加しないと答えた人は、臓器移植に賛成が少ない(72.22%)という結果が出ている。

質問項目(12)の「ホスピス活動、ターミナル・ケアに参加したいですか」の質問に対しては、質問項目(4)の死する時「一人で」と答えた者がホスピス活動に参加したい割合が非常に高い(50%)。

表9 質問項目(3)と(8)、(9)および(10)とのクロス集計結果(集計総数=288人、上段:人数、下段:%)

質問項目(3) (死に不安)	質問項目(8)(脳死)			質問項目(9)(癌告知)			質問項目(10)(臓器移植)		
	はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない
はい	43 (27.2)	40 (25.3)	75 (47.5)	102 (64.6)	7 (4.4)	49 (31.0)	138 (87.3)	6 (3.8)	14 (8.9)
いいえ	26 (42.6)	16 (26.2)	19 (31.2)	48 (78.7)	5 (8.2)	8 (13.1)	43 (70.5)	4 (6.6)	14 (23.0)
わからない	18 (26.1)	12 (17.7)	39 (56.5)	40 (58.0)	1 (1.5)	28 (40.6)	53 (76.8)	1 (1.5)	15 (21.7)
計	87 (30.2)	68 (23.6)	133 (46.2)	190 (66.0)	13 (4.5)	85 (29.5)	234 (81.3)	11 (3.8)	43 (14.9)
検定統計量	$\chi^2=10.111$ P=0.039			$\chi^2=14.025$ P=0.007			$\chi^2=12.639$ P=0.013		

表10 質問項目(3)と(1)および(4)とのクロス集計結果(集計総数=288人、上段:人数、下段:%)

質問項目(3) (宗教は必要か)	質問項目(1)(妊娠したら出産)			質問項目(4)(死に場所)			
	はい	いいえ	わからない	計	病院	自宅	それ以外
はい	15 (44.1)	6 (17.7)	13 (38.2)	34 (100)	2 (5.9)	25 (73.5)	7 (20.6)
いいえ	37 (26.1)	25 (17.6)	80 (56.3)	142 (100)	10 (7.0)	123 (86.6)	9 (6.3)
わからない	28 (25.0)	9 (8.0)	75 (67.0)	112 (100)	11 (9.8)	98 (87.5)	3 (2.7)
計	80 (27.8)	40 (13.9)	168 (58.3)	288 (100)	23 (8.0)	246 (85.4)	19 (6.6)
検定統計量	$\chi^2=12.133$ P=0.016			$\chi^2=14.172$ P=0.007			

質問項目(3)の宗教は必要ですかの質問に対して、必要と答えた人もホスピス活動に参加したい割合が非常に高い(50%)。逆に宗教は必要でないと答えた者は、ホスピス活動に参加したくないと答えた者が28.7%と低く、興味深い相関が出ている。

質問項目(4)の「病院で死にたいですか、自宅で死にたいですか」の質問に、自宅で死にたいと答えた人が、死ぬときに家族に付き添ってほしい(87.5%)という希望が多かった。このことは、大半の人が家庭で愛する家族に見守られながら死にたいと考えていると思われる。

Ⅳ ま と め

総括的に言えば現在の若者達は、生と死についての認識や理解が浅いことがわかった。この調査からは、一応納得できる結果が得られたが、まだなお「生死」に関する浅在性と単純性を指摘表示する結果となった。

具体的には次のようなことが言えよう。

- (1) 自分の死について考えた者が76%、死後において魂が残ると考えたものが62%、死について不安・恐れを持っている者が54%であった、これなどは私のほぼ予想したことと一致する。
- (2) 安楽死を希望する者は70%、尊厳死を希望する者は14%、脳死を希望する者が30%と答えているが、これ等の定義と内容についての認識は果たしてどうであろうか。
- (3) Allpot の人生観のカテゴリーに当てはめると、小学生では48%であった現実主義が中学生では70%近くに達し、さらに女子大生になると85%以上の学生が趣味的に呑気に暮らすという現実主義人生観であり、85.7%の者が信仰を持たず、半数近くの者が宗教の必要性を否定しているという調査結果など現代っ子気質とか言われる側面がよく反映されている。

しかし、信仰や宗教による心の安らぎを否定している若者たちが死という究極の出来事に直面したときには、家族や家庭の中に心の安らぎを求めているという結果が出ていることは、物質文明の中で増大していく若者たちの不安と混乱の精神の支えとして、安定した家庭環境と人間関係の重要性を指摘することができる。